

4月1日現在の就職戦線はどのように進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職活動状況について調査を行った。前年同期調査や先月(今年3月調査)の結果とも比較しながら、現状を分析する。

### 1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は22.6社。前年同期調査(21.9社)をやや上回る
- 説明会参加社数は、オンライン12.6社、会場型4.6社。それぞれ前年より約1社増加

### 2. 会社説明会の適切な所要時間

- 「30分~1時間未満」が最多。会場型は1時間以上を望む学生も多く、オンデマンドは短め
- 参加して不快だったこと、1位「内容に乏しい」、2位「時間が長すぎる」

### 3. 選考試験の受験状況

- ES提出、筆記試験、面接試験とも約9割が経験。最終面接受験者は7割超に
- ES提出社数、筆記試験は前年と同水準。面接社数は前年を上回る(平均5.6社→6.1社)
- 「ESの締切が早過ぎて応募できなかった企業がある」学生は半数近くに上る(49.2%)

### 4. 4月1日現在の内定状況(※)

- 内定率は62.8%。前年同期実績(52.9%)を9.9ポイント上回る
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の2割(20.9%)。8割弱が就職活動継続
- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」に集中。文理とも1位

### 5. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「銀行」、3位「水産・食品」
- 選考中の企業数は平均5.3社。これからESを提出する企業は平均4.0社
- 就職活動を終えたい時期は、今年も選考解禁後の「6月後半」が最多(20.9%)

### 6. 企業選びにおける福利厚生、将来性の重視度

- 福利厚生を「重視する」学生は9割以上(92.0%)。将来性も9割超が重視(91.2%)
- 家賃補助などの「住宅関連」が最多。リモートワークや時短勤務など「働き方関連」が次点

### 7. 魅力を感じる採用形態

- 「総合職採用(メンバーシップ型)」は年々減少。「初期配属確約採用」の増加が目立つ

※「内定」には、内々定を含む

## 調査概要

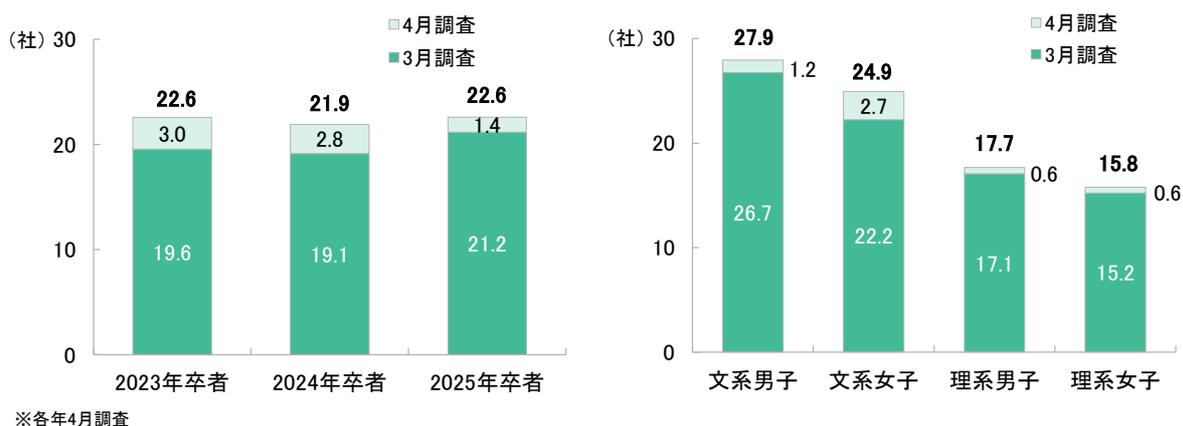
調査対象：2025年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
回答者数：1,210人(文系男子319人、文系女子406人、理系男子313人、理系女子172人)  
調査方法：インターネット調査法  
調査期間：2024年4月1日~6日  
サンプリング：キャリアス就活 学生モニター2025  
調査実施：株式会社キャリアス/キャリアスリサーチ

## 1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

企業の採用広報開始から1カ月が経過した。2025年卒者の就職活動はどのように進行しているだろうか。4月1日時点の活動量から見てみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は22.6社。先月調査では3年ぶりに増加に転じていたが、この1カ月の増え幅は1.4社と伸びは鈍化。文理男女別に確認すると、文系男子が最も多く(27.9社)、次に文系女子が続く(24.9社)。理系は男女とも20社未滿で、文系に比べ少ない。先月からの増え幅も理系は男女とも少ない。

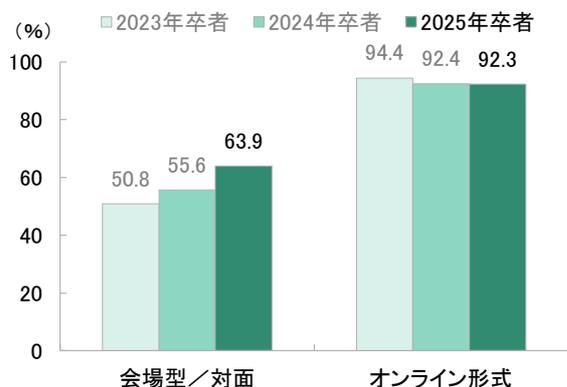
<エントリー社数>



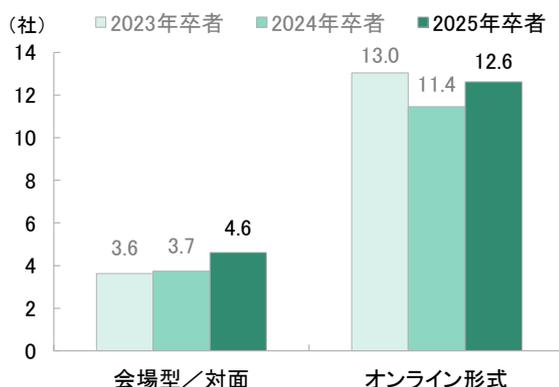
会社説明会(個別企業のセミナー)の参加状況を、開催形式ごとに尋ねた。オンライン形式への参加経験を持つ学生が9割を超え(92.3%)、会場型は6割超(63.9%)。会場型の参加経験率は2年前に比べ10ポイント以上増えている(50.8%→63.9%)。

参加・視聴社数は会場型が平均4.6社、オンライン形式が12.6社と、それぞれ前年より1社程度増加した。

<会社説明会 参加・視聴経験>



<会社説明会 参加・視聴社数>



<会社説明会 参加・視聴社数/属性別>

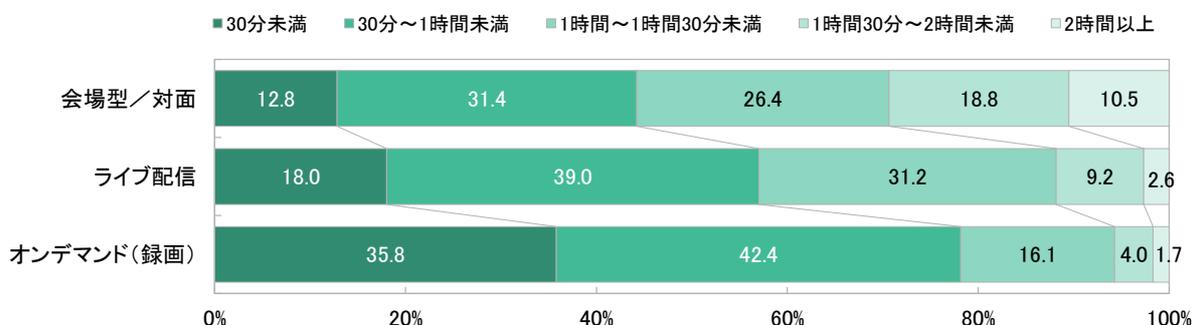
	全体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
	(前年全体)	(前年全体)				
会場型参加社数	4.6	3.7	5.5	4.7	4.0	3.4
オンライン形式視聴社数	12.6	11.4	12.6	15.8	8.7	11.9

## 2. 会社説明会の適切な所要時間

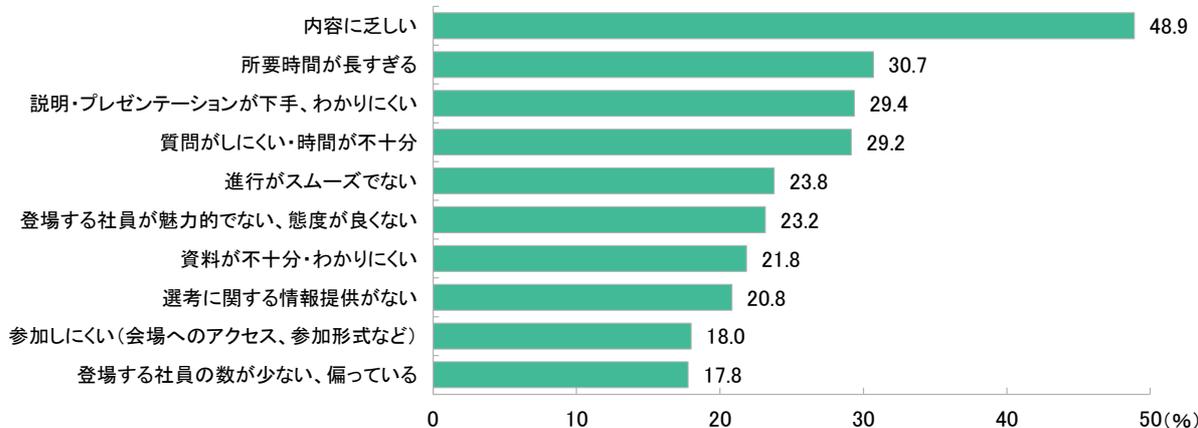
学生から見て適切だと思う会社説明会の所要時間を形式別に尋ねた。いずれの形式も「30分～1時間未満」が最も多いが、会場型では1時間以上を選んだ割合が他の形式より高い(計55.7%)。オンデマンド配信は3つの中で最も短く、「30分未満」が3割を超え(35.8%)、1時間未満までを合計すると8割近くに上る(計78.2%)。双方向性のコミュニケーションができない録画形式では、短時間で開催を求める学生が圧倒的に多い。

なお、実際に参加(視聴)した会社説明会で、不快に思ったことを複数回答で尋ねた。半数近くが「内容に乏しい」を選び(48.9%)、次いで「所要時間が長すぎる」(30.7%)、「説明がわかりにくい」(29.4%)の順。企業研究に十分な情報量を短時間で効率よく説明してもらいたい、という学生の心理が読み取れる。

<会社説明会の適切な所要時間>



<会社説明会で不快に思ったこと>



※全18項目からあてはまるものをすべて選択。うち、上位10位まで ※不快に思ったことがある者が回答

### ■実際に参加したセミナーの感想

#### 【印象がよかったもの】

- 職種別に質疑応答の時間があり、気になる職種の方に少人数で聞きたいことが聞けた。 <文系女子>
- ESでどこを見ているかなどの情報提供がありよかった。アーカイブがあったのも好印象。 <理系女子>
- 研究所の中を社員が回りながら中継してくれた。より働く場所のイメージがついた。 <理系男子>
- 会社説明、グループワーク、座談会など1回で多くのことを体験できた。雰囲気も良かった。 <文系男子>

#### 【印象が悪かったもの】

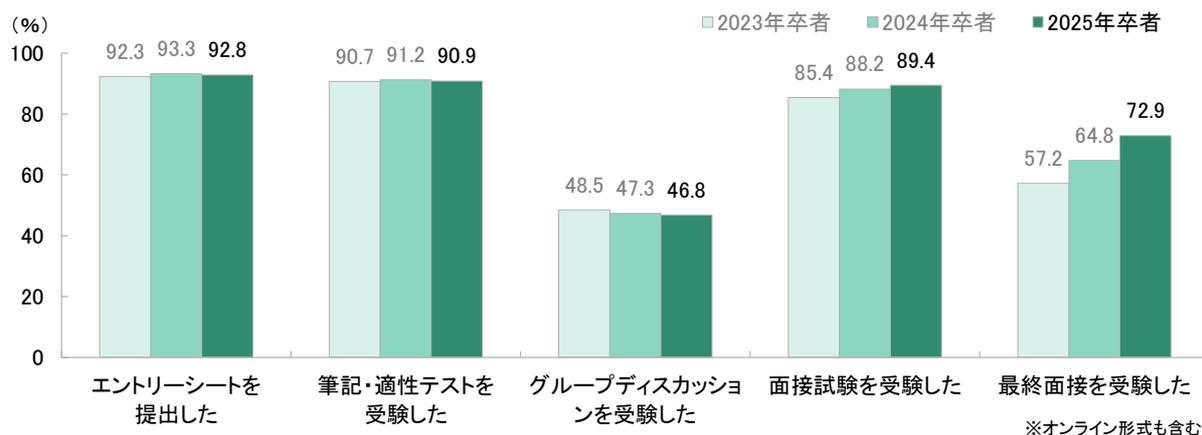
- 説明がとても早口で聞き取れないし、メモができない。 <文系女子>
- 時間が伸びているにもかかわらず参加者の意向をくみ取らず、ダラダラと延長していた。 <文系男子>
- ホームページを見ればわかる内容で、就職のための情報もあまりなく、時間を無駄にした。 <理系男子>

### 3. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を確認したい。エントリーシート（ES）の提出、筆記試験、面接試験とも全体の約9割、最終面接は約7割の学生が経験している。最終面接は、2年前と比べると15ポイント以上増加しており（57.2%→72.9%）、選考の最終局面に進むタイミングが前倒しになっている様子が読み取れる。受験社数も前年同時期を上回る（1.6社→2.1社）。

早期化する企業の動きに対応できていないケースも見られ、「ESの締切が早すぎて応募できなかった企業がある」と回答した学生は半数近くに上る（計49.2%）。

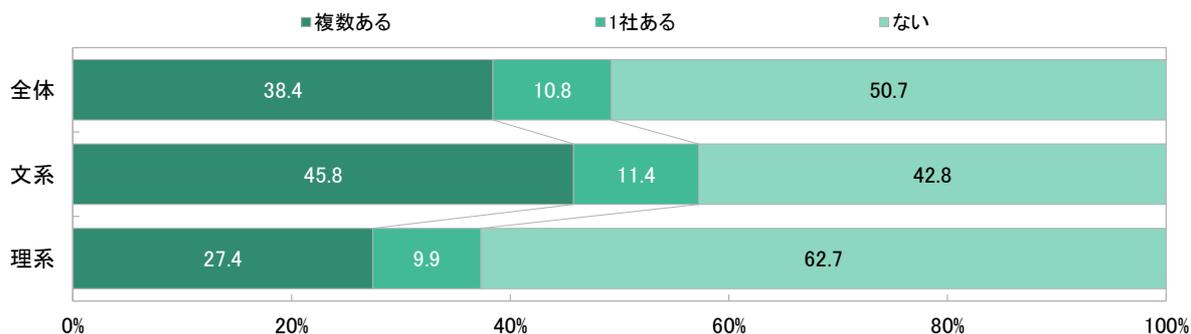
<選考試験の受験状況>



<選考試験の受験社数>

	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	10.8	10.7	12.8	11.9	8.2	8.9
筆記・適性テスト	7.6	7.5	9.5	7.9	6.2	6.0
グループディスカッション	2.5	2.3	2.8	2.2	2.7	2.1
面接試験	6.1	5.6	7.2	6.4	5.1	5.1
最終面接	2.1	1.6	2.0	1.8	2.4	2.2

<ESの締切が早すぎて応募できなかった企業の有無>



#### ■3月の就活を振り返って（忙しかったという学生の声）

- エントリーシートの締切が次々発表されて、ほぼ毎日パソコンに向かう日々だった。 <文系女子>
- 対面で行われる最終面接のため各地に移動したり、新たに会社説明会の視聴やESの記入をしたり、とても忙しかった。 <文系男子>
- スケジュール帳の大半が、就職関連だった。土日以外、面接や説明会で埋め尽くされていた。 <理系男子>
- ESに追われ、何社か提出を諦めた企業もあり、とても後悔している。 <理系女子>

### 4. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の62.8%。前回調査(43.2%、3月調査)からの1カ月間で19.6ポイント増え、6割を超えた。前年同期(52.9%)に比べ9.9ポイント高く、非常に早いペースで進行している。文理男女のいずれも前年同期実績を上回るが、理系は男女とも前年より10ポイント以上高く、特に早期化が顕著。

インターンシップ等のプログラム(※)に参加していた企業からの内定は全体の67.5%。前年(70.1%)よりも比率はやや下がった。インターンシップ等に参加していない企業からの内定時期が早まったことで、内定率が押し上げられた面もあるだろう。(グラフは次ページに掲載)

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは33.3%。内定取得後も6割以上が就職活動を続けていると回答した(61.7%)。ただし、理系は内定取得者の約半数が就活を終了するなど、文理での差が目立つ(文系は約2割)。

(※1日以内のプログラムも含めて調査)

< 4月1日現在の内定状況 > \*「内定」には、内々定を含む

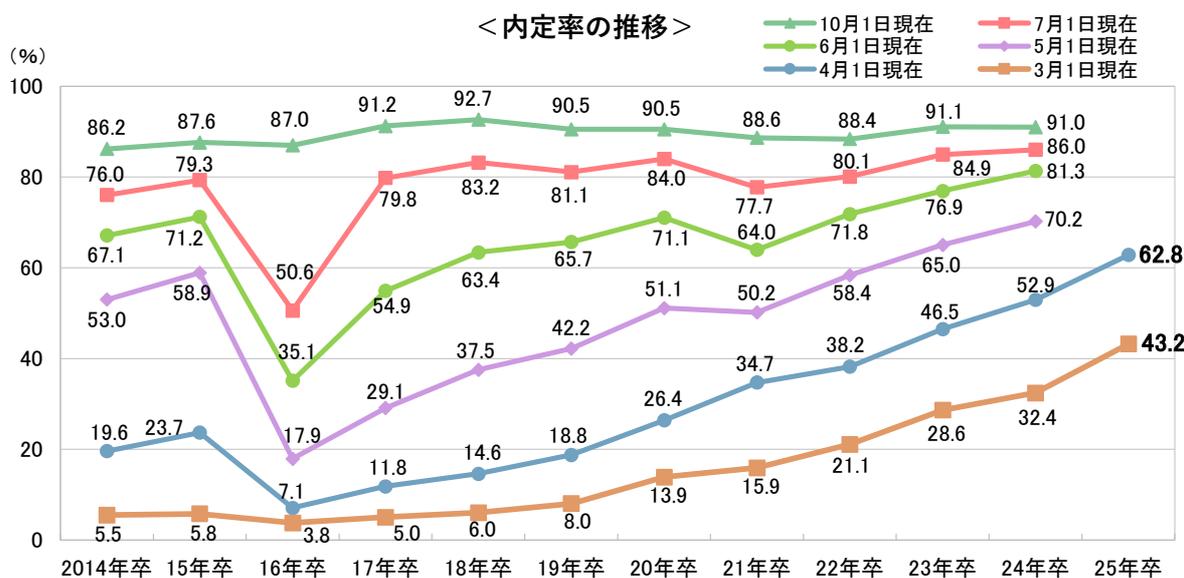
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		62.8 (52.9)	55.8 (49.8)	57.4 (48.7)	71.9 (58.5)	72.1 (60.5)
内定なし		37.2 (47.1)	44.2 (50.2)	42.6 (51.3)	28.1 (41.5)	27.9 (39.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	33.3 (31.0)	21.9 (20.5)	17.2 (21.4)	51.1 (47.3)	47.6 (40.2)
	活動は終了したが複数内定保持	4.9 (4.5)	3.4 (4.5)	4.7 (3.7)	5.8 (5.4)	5.6 (4.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.1 (0.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.4 (0.5)	0.0 (1.1)
	就職活動継続	61.7 (64.2)	74.7 (75.0)	78.1 (74.9)	42.7 (46.8)	46.8 (54.3)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.0 (1.8)	2.0 (1.7)	2.0 (1.8)	2.0 (1.8)	2.0 (1.8)

(社)

※ ( )内は前年(4月1日現在)の数値



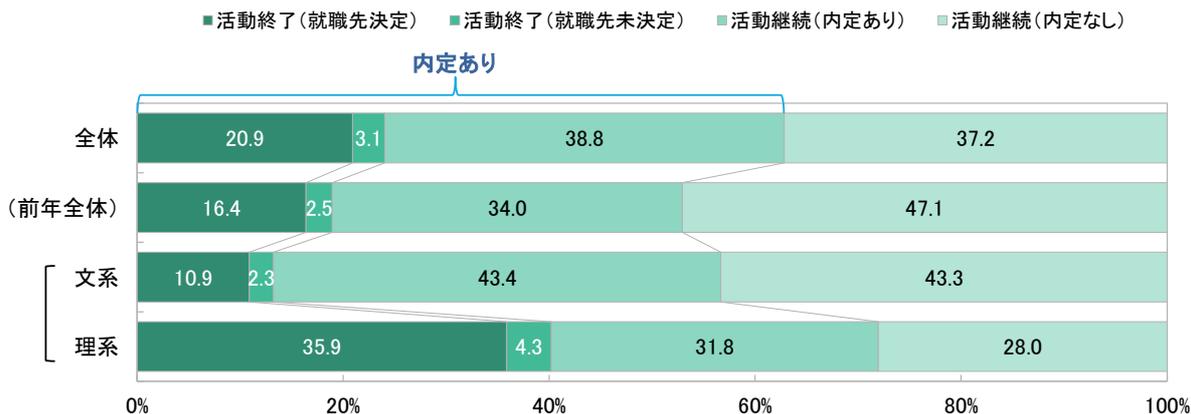
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~25卒は6月

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は20.9%。前年同期(16.4%)より4.5ポイント増加した。複数内定を保留しているなど未決定である者(3.1%)を合わせると、終了者の割合は24.0%になる。

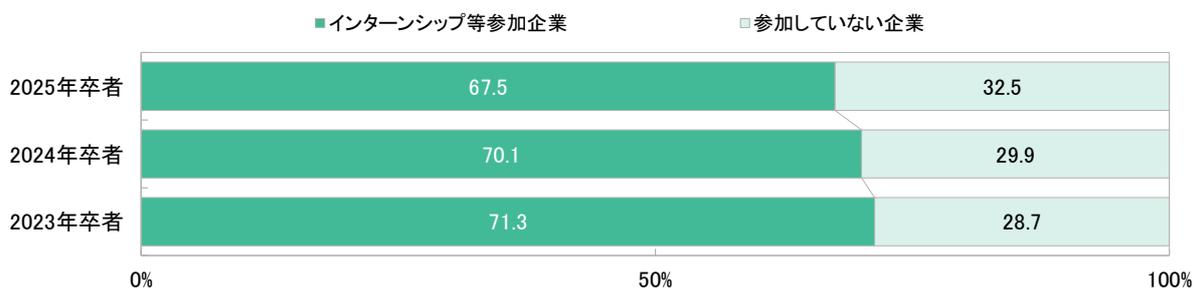
一方で、最も多いのは「活動継続(内定あり)」の学生で、全体の4割近くを占める(38.8%)。

活動状況の分布は文理による差が大きく、文系の終了者は1割程度であるのに対し(計13.2%)、理系学生は4割が終了したと回答した(計40.2%)。

<活動状況の分布>



<内定を得た企業のインターシップ等参加>



※1日以内のプログラムも含む

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が先月調査に引き続き最も多いが、先月よりもさらに集中度が高まった(26.2%→30.5%)。2位「調査・コンサルタント」、3位「建設・住宅・不動産」と続き、3位までは前年と同じ並び。

「情報処理・ソフトウェア」は文理問わず多くの内定が出ている。

<内定を得た業界(上位5業界)>

	全体 (%)	文系 (%)	理系 (%)
1 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト①	30.5	30.2	30.9
2 調査・コンサルタント②	16.8	17.8	20.3
3 建設・住宅・不動産③	15.9	13.9	19.8
4 人材サービス・人材紹介・人材派遣⑥	12.8	13.4	16.0
5 自動車・輸送用機器⑧	10.8	12.7	15.8

※○の中の数字は前年同調査の全体順位 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

### 5. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（モニター全体の76.0%）の動向を確認したい。

現時点の志望業界を5つまで選んでもらったところ（全40業界）、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」（16.3%）。序盤からIT業界の人気は変わらず、4月現在も続いている。以下は「銀行」（15.8%）、「水産・食品」（13.4%）の順。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、男女ともに1位。理系はITの他にメーカーが上位に多い。理系男子の2位に「電子・電機」、4位に「自動車・輸送用機器」など。理系女子は「水産・食品」「医薬品・化粧品」「素材・化学」に人気が集中している。

#### <就職活動継続者の志望業界（上位10業界）>

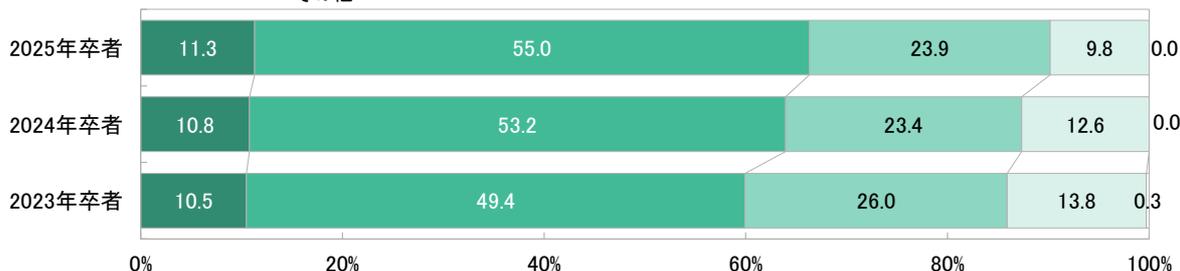
		※5つまで選択 (%)								
	全体	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト②	16.3	銀行	26.7	銀行	17.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	20.4	水産・食品	29.8
2	銀行③	15.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	16.4	マスコミ	16.6	電子・電機	19.1	医薬品・医療関連・化粧品	
3	水産・食品④	13.4	情報・インターネットサービス	15.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.3	建設・住宅・不動産	17.2	素材・化学	27.7
4	情報・インターネットサービス①	13.1	官公庁・団体	14.7	水産・食品	13.0	情報・インターネットサービス	14.6	情報・インターネットサービス	14.9
5	官公庁・団体⑥	12.1	調査・コンサルタント	13.4	官公庁・団体		自動車・輸送用機器		建設・住宅・不動産	13.8
6	建設・住宅・不動産⑤	11.9	保険	11.6	ホテル・旅行	11.6	素材・化学	12.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.8
7	素材・化学⑩	10.5	建設・住宅・不動産	10.8	情報・インターネットサービス	10.3	精密機器・医療用機器	10.8	電子・電機	10.6
8	マスコミ⑧	10.3	商社（総合）		運輸・倉庫	9.6	水産・食品	10.2	調査・コンサルタント	9.6
9	電子・電機⑦	9.1	エネルギー	10.3	建設・住宅・不動産	9.3	エネルギー	9.6	官公庁・団体	8.5
	調査・コンサルタント⑨		運輸・倉庫	9.9	人材サービス・人材紹介・人材派遣	9.0	機械・プラントエンジニアリング		ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	7.4
10	運輸・倉庫⑪	8.4					官公庁・団体	8.9		

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

内定を持ちながら就職活動をしている学生（全体の38.8%）に、内定企業をどう位置付けているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは約1割（11.3%）。「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」が最も多く、過半数に上る（55.0%）。経年で見ても「それなりに満足しているので…」は増えており、入社に前向きながらも、より志望度の高い企業の結果次第とする学生が多いことがわかる。

#### <内定を得ている企業の位置づけ>

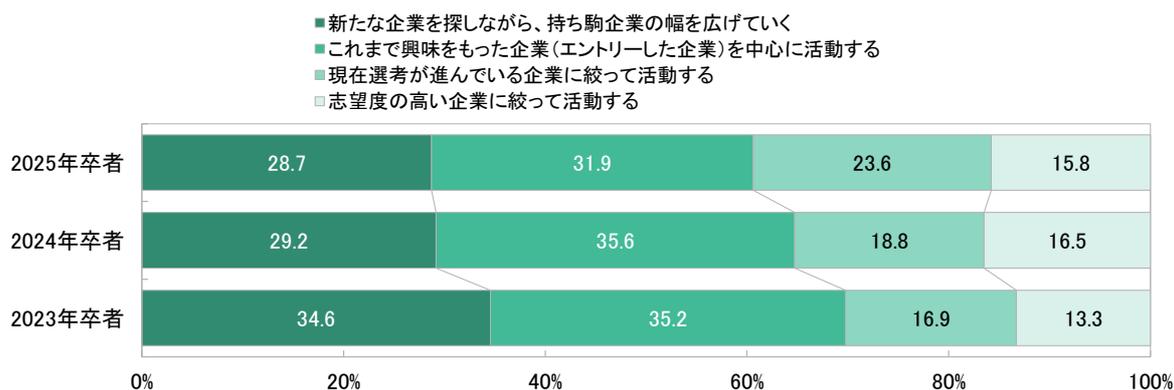
- 満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う
- それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う
- 満足度は高くないが、他に内定が出なければ、この企業に入ると思う
- あくまで押さえであり、実際にこの企業に入ることはないと思う
- その他



内定保持者を含め就職活動を継続している学生(全体の76.0%)に、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多いのは、「これまでに興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する」(31.9%)で、エントリー企業の企業研究を深め、選考の準備をしている学生が多いことがわかる。また、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が前年調査より増加し(18.8%→23.6%)、「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」は微減。目の前の選考に集中したいという学生が増えているようだ。

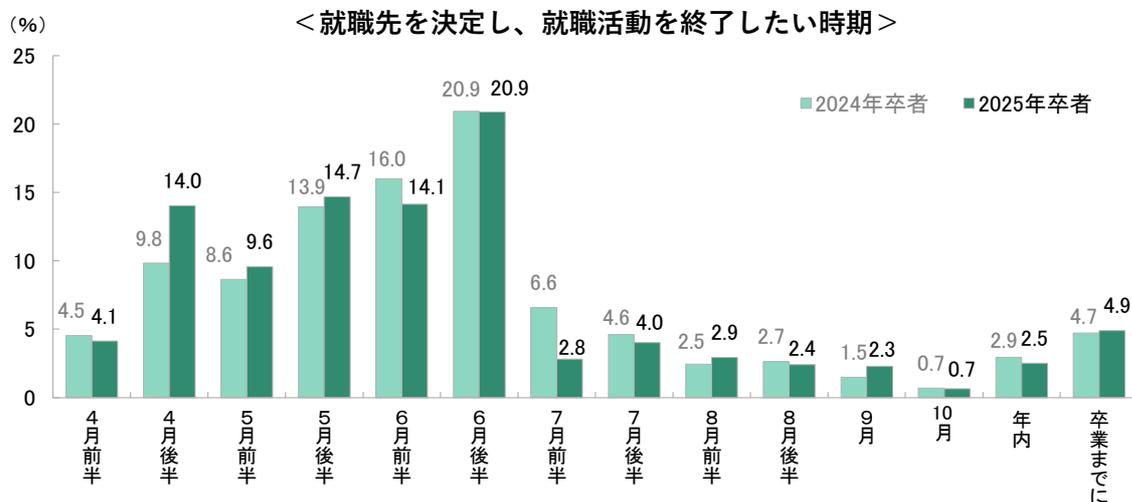
調査時点で選考中の企業数は平均5.3社。

<今後の就職活動の方針・戦略>



	全体	(2024年卒者)	(2023年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	5.3	5.6	6.1	6.4	5.8	3.5	4.1
今後のエントリー予定社数	3.5	4.1	5.0	4.3	3.5	2.8	2.5
今後の会社説明会参加予定社数	3.1	3.3	3.9	3.5	3.5	2.3	2.1
今後のエントリーシート提出予定社数	4.0	4.3	5.0	4.3	4.7	2.9	2.5

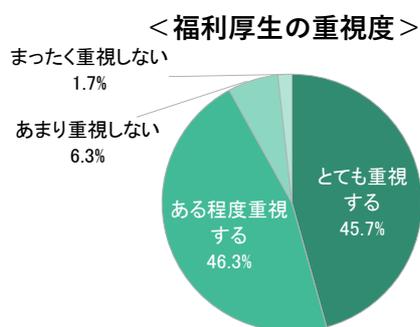
就職先を決定して就職活動を終了したい時期は、今年も「6月後半」(20.9%)が最多。ここまでかなり早いペースで進行しているものの、選考解禁後の6月を終了時期の目安にしている学生が多いようだ。6月までに納得して就活を終えるためにも、新しい企業を探そうという動きがここから出てくるものと見られる。



## 6. 企業選びにおける福利厚生、将来性の重視度

就職先企業選びにおいて福利厚生をどの程度重視するかを尋ねた。「とても重視する」という人は4割強に上り(45.7%)、「ある程度重視する」(46.3%)を合わせて9割以上が重視していると回答(計92.0%)。ほとんどの学生にとって重要な項目であることがわかる。

さらに、福利厚生の中で重視する分野を3つまで選んでもらった。「住宅関連」が圧倒的に多く7割を超える(72.9%)。文理男女別に見ると、女子に比べ男子でやや高い。一人暮らしを想定した場合、家賃は大きな出費になるため、住宅補助や社員寮の有無は大きな基準になっていることが、寄せられたコメントからも読み取れる。次に多いのは「働き方関連」で半数近くが選択(48.7%)。男子に比べ女子で高く、文系女子では6割に上る(60.7%)。リモートワークやフレックスタイム制の有無に加え、ライフイベントに合わせた時短勤務などの柔軟な働き方ができるかどうかなどへの関心が高いようだ。



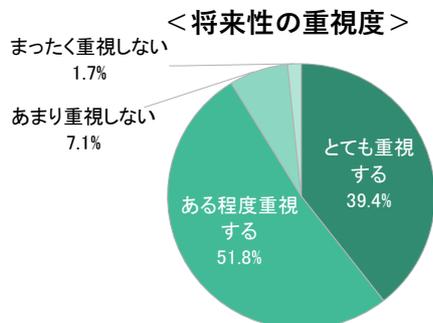
＜福利厚生で具体的に重視している分野(上位3つまで選択)＞

	(%)				
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
住宅関連 (家賃補助、社員寮・社宅の整備、引越し費用補助など)	72.9	75.9	65.4	81.3	70.9
働き方関連 (時短勤務制度、リモートワーク促進手当など)	48.7	40.6	60.7	38.1	52.7
通勤関連 (通勤手当、ガソリン代補助など)	39.4	41.3	41.1	32.7	43.6
子育て・介護関連 (入園・就学費用補助、社内託児所の整備など)	26.3	16.4	32.8	24.8	30.9
自己啓発関連 (資格取得補助、研修制度や施設、セミナー受講費補助など)	24.5	28.3	21.9	23.4	26.1
余暇・ヘルスケア関連 (特別休暇、社員旅行、人間ドック費用補助など)	21.4	24.5	24.2	15.1	20.0
食事関連 (社員食堂の整備、食費補助など)	7.6	9.1	5.2	10.1	6.7
財産形成関連 (企業年金、財形制度など)	7.1	7.7	7.0	7.6	5.5
慶弔・災害関連 (結婚・出産祝い金、見舞金など)	2.2	3.1	1.8	1.8	1.8
その他	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0

### ■具体的に望むもの・条件や、その理由など

- 家賃や通勤費が出費の大部分を占めると想定され、その負担が軽減される手当はありがたい。 <文系男子>
- 家賃補助がないと手取り20万以下じゃ暮らしていけなさそう。将来を見据えると育休産休が充実していて欲しい。交通費は支給して欲しい。 <文系女子>
- リモートワークが可能か。フレックスタイム制があるか。 <理系男子>
- 働く中で必要なスキルを身につけるためにも、資格取得補助があればモチベーションに繋がる。 <文系女子>
- 研究で必要な知識を学ぶ機会として有効活用したいので、資格取得は特に重視したい。 <理系男子>
- 完全週休二日制は確実に欲しい。手取りが少ない状況が2~3年続くので、住宅手当も欲しい。 <文系男子>
- 奨学金補助。 <文系女子>
- 年間休日は120日以上欲しい。 <理系女子>
- 美味しい社員食堂は魅力を感じる。 <理系男子>
- 研修制度や、テレワーク、子育て支援などがないと、40年以上働けないと思う。 <文系女子>

将来性も、企業選びにおける重要な指標の一つになっており、「とても重視する」(39.4%)、「ある程度重視する」(51.8%)を合わせて9割が重視していると回答(計91.2%)。どのような基準で将来性を判断しているのかを具体的に尋ねたところ、既存事業の安定性や成長性に加え、新規事業や社会課題への取り組み姿勢などが多く挙げられた。



■将来性を判断する基準

- その企業が属する業界の成長性と、その中でその企業がどのような立ち位置にいるか。 <文系男子>
- 扱う製品やサービスに今後成長する余地があるかどうかで判断している。 <理系男子>
- 今持つ技術に頼りすぎていないか、新しい技術や考え方を積極的に取り入れようとしているか。 <理系男子>
- この数年で新規事業をどの程度行なっているか、既存事業の売り上げ推移は安定しているか。 <文系女子>
- 時代に則したDXや環境問題といった社会課題に注力している企業は先進的な印象を受ける。 <文系男子>
- AIに代替される事業内容や仕事内容ではないかを特に重視した。 <文系女子>
- 海外に進出しているか、研究開発に力を入れているか。 <理系女子>

7. 魅力を感じる採用形態

学生がどのような採用形態に魅力を感じているのかを尋ねた。最も多いのは「総合職採用(メンバーシップ型)」で、3割強が選んだ(38.0%)。ただし、2年前は半数近くが選んでいたのに比べると、減少傾向が顕著(47.8%→38.0%)。「初期配属確約採用」は増加傾向が目立つ(9.2%→16.6%→21.0%)。

幅広い業務を経験したい、働きながら適性を見極めたいという理由から「総合職」を志望する学生が依然として多いものの、近年、初期配属の職種やエリアを限定した採用形態を新たに設ける企業の動きもあり、入社後のイメージやキャリアパスを明確にしたいと考える学生が増えているようだ。

